

ITBO研究会における訓練の研究

2010年9月29日

情報システム・バックアップオフィス研究会

座長 川村丹美（株式会社シーエーシー）

目次

- 1 . ITとBOは訓練のプロ
- 2 . BCP訓練とDRP訓練の違い
- 3 . 訓練に関する認識と実績
- 4 . BCP訓練のあるべき姿とは
- 5 . 訓練の発想
- 6 . ITBO研究会の今後の取り組み
- 7 . 今年度の展開

1. ITとBOは訓練のプロ

◆豊富な実績とノウハウ

IT（情報システム）

- DCのDR(ディザスタ・リカバリー)
- システムの継続要求への対応



「BCP」の概念が注目される前から訓練の実施が不可欠であったため様々な形で継続的に取り組んできた

BO（ファシリティ/ビル管理）

- 防災訓練
- 避難訓練



ITよりもさらに前から、人命を守り安全を確保する目的で実施してきた

手法

目的

それでは・・・

形式

効果

検証

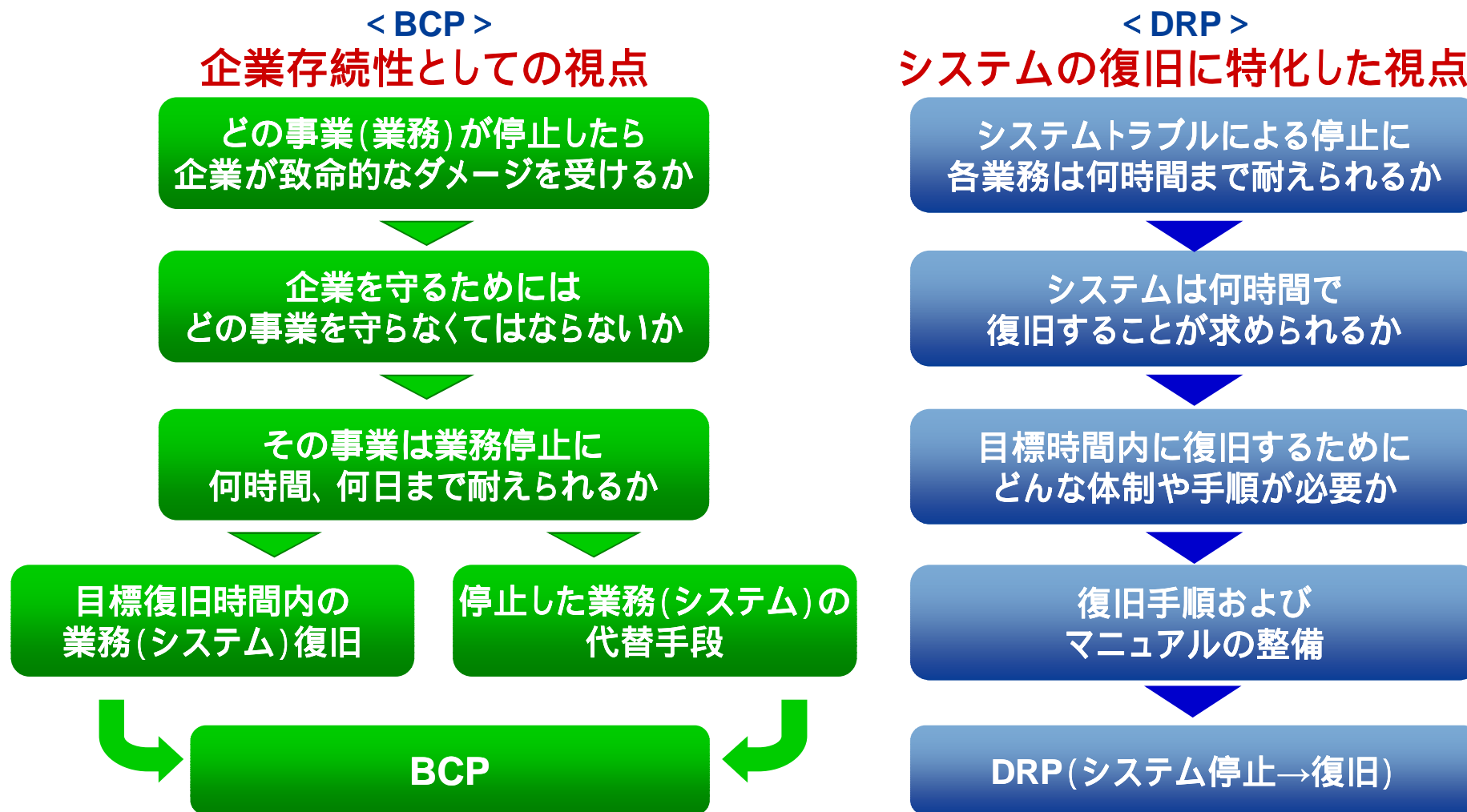
これらの実績がそのまま活かせるのか？

どうやって活かせばうまく応用できるのか？

規模

2 . BCP訓練とDRP訓練の違い

◆BCPとDRPの考え方



2 . BCP訓練とDRP訓練の違い

◆本当に「BCPの」訓練ができていますか

BCPが、絵にかいた餅になっていませんか

社員にBCPの内容が理解されていますか

いま大規模災害が発生したら、あなたの会社の社員はどのような行動をとると思いますか

その行動は、あなたや会社が社員に求めている行動と合致していますか

その行動によって、あなたの会社の事業継続性は確保されますか

2 . BCP訓練とDRP訓練の違い

◆ 「BCPの」訓練に必要な視点

BCPが自社の現状に合致しているかどうかを検証し、

その内容が社員に正しく理解・認識され、

いま大規模災害が発生したら、社員が業務や事業の継続のために必要な行動を自らとることができ、

その行動は、作成したBCPの方針に基づいたものであり、

その行動によって、あなたの会社の事業継続性が確保される必要があります。

3 . 訓練に関する認識と実績

訓練に関するアンケート実施結果 (ITBO研究会内)

目的

- ・ 他社の動向を参考とすることで、訓練の計画策定・推進に役立つ知見を広める
- ・ BCPの策定や訓練はどの程度浸透しているのか
- ・ 外部への啓蒙 (訓練の必要性など)

6 つの訓練に分類し、実施状況を確認

- 緊急対応組織訓練
- 安否確認訓練
- 出勤・帰宅訓練
- 在宅勤務訓練
- システムDRP訓練
- バックアップオフィス訓練

緊急対応組織訓練

1. 緊急時に緊急事態の報告を受け、意思決定・現場指示を行う対応組織は定められていますか？
YES (以下複数選択可)
設置基準がある 権限者が定められている 設置場所が定められている
連絡・通信手段が用意されている PC、社内ネットワーク環境などが準備されている
その他 (具体的に: _____)

NO 定められていない理由、その他自由意見: _____

2. 前記回答がYESの場合、この組織を稼働させる訓練は実施していますか？
YES (以下複数選択可)
 緊急連絡網の訓練を実施している 組織設置場所への参集訓練を行う
予め知らされた緊急事態の想定に沿って、組織設置から指示・報告などをシミュレーション
その場で緊急事態の課題を与え、組織設置から指示・報告などをシミュレーションする
設置場所に予め用意したPC・通信などインフラを確認する。
BCP・コンチプランなどで想定している緊急事態の範囲外の事態にも耐える訓練を実施し
NO 実施していない理由、その他自由意見: _____

【前記質問の回答がYESの場合、以下3. - 6. の質問に回答してください】

3. 訓練は定期的に行っていますか？
YES (1回/2年、 1回/年、 2回/年、 その他(_____))
NO 実施時期はどのように決めていますか: _____

4. 訓練はどのような部署が所管して実施しますか？
経営企画部門 総務部門 システム部門
緊急時に設置される組織 その他(_____)

5. 1回の訓練の規模はどの程度になりますか？
人数 ~10人 ~50人 ~500人 500人以上 知る立場にない
時間 ~1時間 ~半日 ~1日 1日以上 知る立場にない
費用 社内ではこの訓練について費用を管理していない
人件費を含めて(_____ 万円)として管理している
人件費は除き(_____ 万円)として管理している
知る立場にない

6. 訓練の効果・訓練のポイント・課題など、自由に意見を記入してください。
[_____]

3 . 訓練に関する認識と実績

訓練に関するアンケート実施結果（ITBO研究会内）

前提

1 . 対象とする訓練

- B C / D R に関連する全ての訓練
- ただし消防法施行令で義務付けられている消火訓練・避難訓練を除く

2 . 調査の対象

- 自社 / 顧客等のいずれについてでも可

3 . 記名の有無

- 無記名の回答で可

4 . アンケートに記入いただく方

- I T B O メンバーができる範囲で回答するが、社内の担当部署でも可

5 . 公表のルール

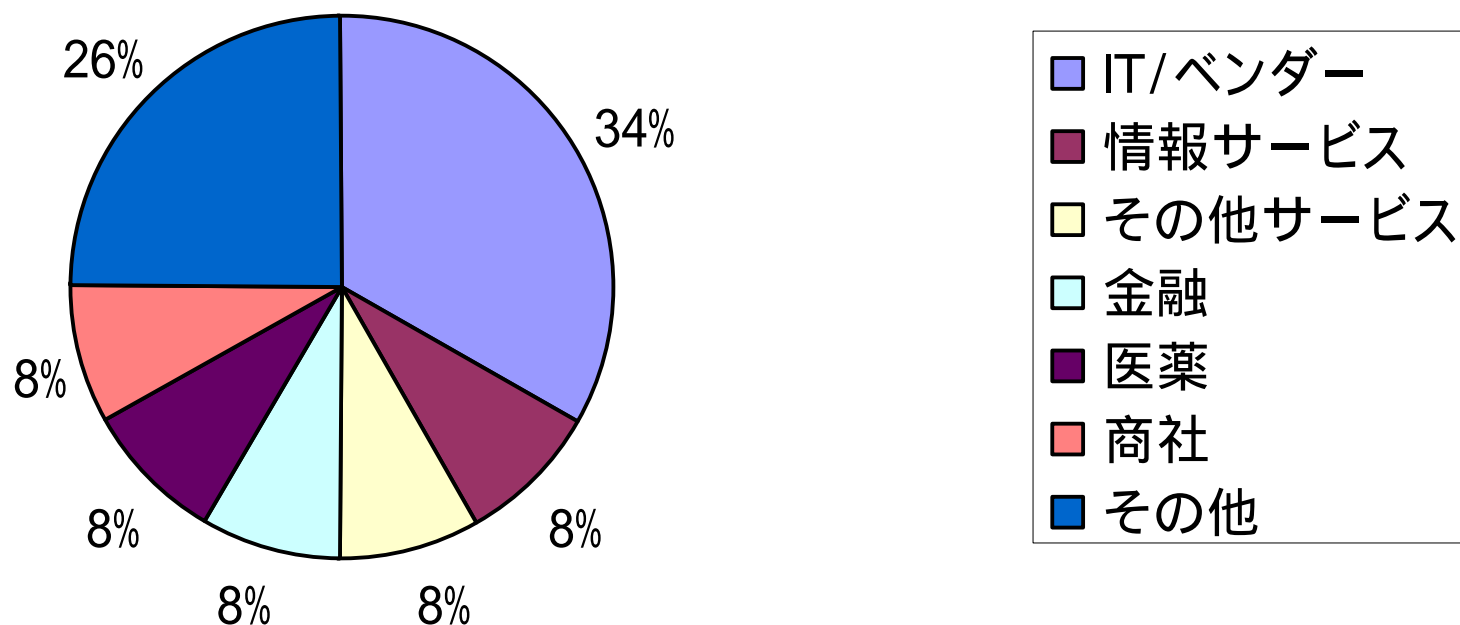
- 社名は公表せず、有効回答数とその集計結果に絞って公開する

6 . 集計結果還元

- アンケートに回答頂いた方のみに集計結果を還元する

3 . 訓練に関する認識と実績

◆回答企業の属性



3 . 訓練に関する認識と実績

◆ 分析と考察

1. 前提として確認した結果、ほとんどの企業がBCPかそれに近い計画を持っていた。逆に、BCPの重要性について意識の高い企業がアンケートに協力してくれた可能性は高い
2. 緊急対応組織、安否確認についてはほとんどがしくみをもち、訓練も定期的にも実施できている
3. 災害が発生した際の出勤・帰宅ルールはほとんどがあり、オフィスが使えない、または出社できない場合の在宅勤務については40%が何らかのルールを設けている。しかしどちらも訓練の実施には至っていない
4. DRPはほとんどが持っており、高い比率で定期的な訓練ができている
5. 業務を継続するためのバックアップオフィスを準備している企業は自社の施設・社外の業者との契約を含めて46%であったが、バックアップオフィスを使用する訓練を実施している比率は非常に低い

4 . BCP訓練のあるべき姿とは

◆ BCP策定の際に積み上げた「戦略」の検証

1. 業務が停止したことによって自社にどんなダメージがあるのか、ビジネスインパクト分析（BIA）を実施した
 - 自社の操業停止の許容日数の想定
 - 操業停止による利益損失の想定
2. BIAをもとに、復旧目標を設定した
 - いつまでに復旧させるか
 - どのレベルにまで復旧させるか
3. 目標実現のための施策が設定されていること
 - どのような手段で復旧目標を達成するか

5 . 訓練の発想

◆ 事例

想定外への備え

見るべきものを見る

経営層の思考に触れる

思い込みの払拭

5 . 訓練の発想 – 事例 想定外への備え

◆ 「決まったこと」を「決まったとおり」に進めることで、得られることは何か？

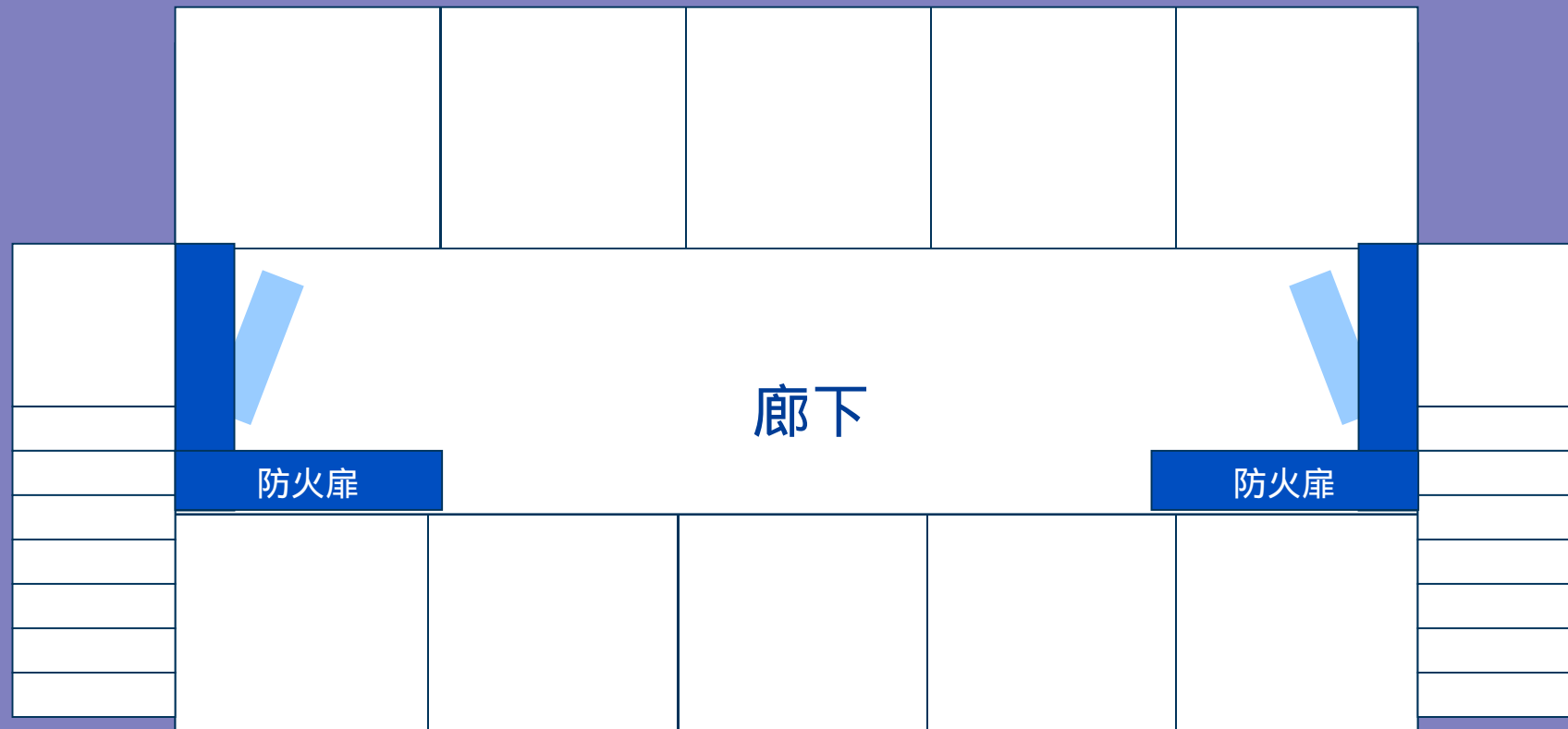
- 避難訓練での、ある社員の行動
- 避難路（階段）は、なぜ「2箇所」あるのでしょうか。
「規則(消防法)だから？」
ではなぜ、規則が定められたのか？

片方の避難経路が使えなかった場合のバックアップ

「バックアップ」が機能するかどうかを、
いつ、誰がどのようにチェックするのか？

「想定外」が発生する可能性を、
いつ、誰がどのように教えるのか？

5 . 訓練の発想 – 事例 見るべきものを見る



「模擬訓練」は、実際の災害時に困らないように
ありえることをすべて体験させる

5 . 訓練の発想 – 事例 経営層の思考に触れる

◆事務局の認識と経営層の認識

- 事務局メンバーの意識と経営層の意識が違うことがある
- 訓練の中で、経営層（BCP対策本部で意思決定者となる人びと）に実際に検討してもらう

< 例 > 本社機能移転のための経路の検討

- 本社 都内はずれの別拠点への移動
 - 会社にいる間に地震が起きたら
 - 本社機能が使えなくなったら

社屋の倒壊/半壊、執務スペースの機能麻痺、隣接する建物からの二次災害（延焼、消防の水、倒壊の影響）

具体的なイメージをいかに描いてもらうか

5 . 訓練のありがた - 思い込みの払拭

◆ 私たちにありがちな発想「自分だけは大丈夫」

- この意識がある限り、なかなか本気で訓練に取り組む態勢にはなれない
- 「自分にも同じことが起きるかもしれない」という危機感を持ってもらう

具体的なイメージを通してリスクを理解させる

5 . 訓練のありかた – 事例 思い込みの払拭

◆ 2007年2月18日「東京マラソン」の実例

- スタートラインに集まった約3万人のランナー全員がスタートラインを通過する所要時間

➡ **約20分**

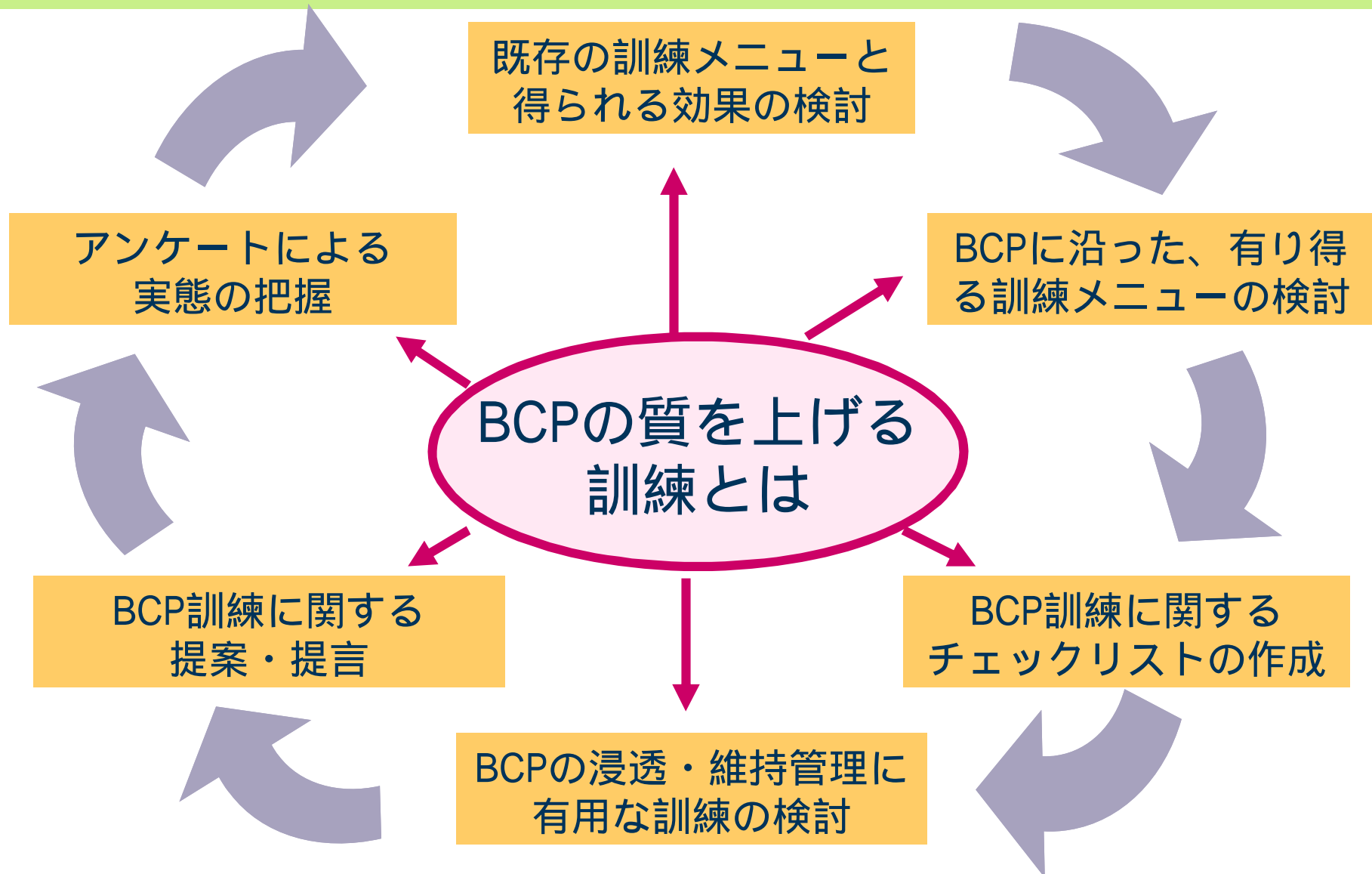
- 3万人のランナーが20分以内にスタートラインを通過できた理由は片側3車線、合計6車線と道幅が広がったため。
- 5000人の警備、決められたコースを一方通行で進行、同じ目的地に向かって進行
- 2006年に実施された第9回荒川市民マラソンでは、東京マラソンの半分の1万6000人が通過するのに20分を要した。

◆ 東京マラソンとの条件の違い

- 警備員および交通規制：なし
- コース：なし
- 目指す方向：まちまち
- 放置された車、倒壊した建物などの障害



6 . ITBO研究会の今後の取り組み



7 . 今年度の展開

◆ BCPの訓練に関する

訓練メニューの検討

- BCPに沿った、有り得る訓練の検討と提案
- 訓練の種類とメニュー
- アンケート、チェックリストとの連動

訓練チェックリストの作成

- ベンチマークの項目検討
- 訓練の評価軸の項目検討

情報の共有

- メンバー間での事例・課題の共有
アンケート限定の話題ではなく訓練全般について
- 他研究会とのコラボレーション

アンケートの作成・実施の再挑戦

単年度の活動に限定せず、息の長い試みを続けていく

ご清聴ありがとうございました。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
情報システム・バックアップオフィス研究会
A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)